2020年4月30日
株式会社リクルートキャリア

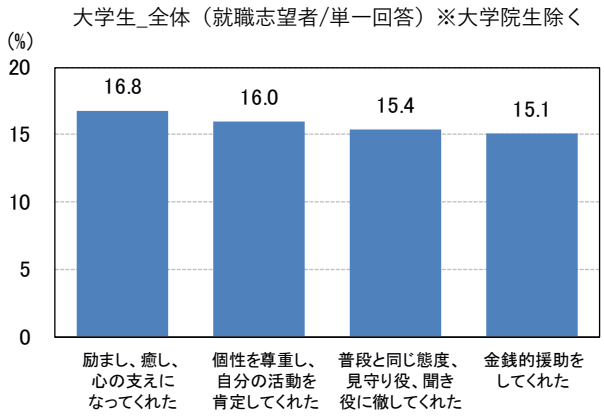
【2020年卒 TOPIC】
保護者とのかかわりの中で最もうれしかったことは「励まし、癒し、心の支えになってくれた」が最多
～「保護者が知っておきたい就職活動に関するデータ10」～

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐藤 学）のよりよい就職・採用の在り方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、大学生・大学院生を対象に調査を実施しております。本リリースでは、「就職プロセス調査（2020年卒）内定状況（2019年12月1日時点）」にて聴取した「就職活動中の学生と保護者とのかかわり」についてレポートいたします。

保護者は自分世代の経験や考え方で判断せず、学生個人の意見を尊重したサポートを

先日発表した「保護者が知っておきたい就職活動に関するデータ10」（本リリースP8～）とあわせて、今回は就職活動中の学生と保護者とのかかわりについてレポートします。「保護者とのかかわりの中でうれしかったこと、助かったと思ったこと」については「物質的援助をしてくれた」（45.9%）が最多となりました。また、うれしかったこと、助かったと思ったことの中で「最もうれしかったこと、助かったと思ったこと」を聞くと、「励まし、癒し、心の支えになってくれた」（16.8%）が最多となり、学生は物心両面の支援を望んでいる様子が分かります。「保護者とのかかわりの中でつらかったこと、やめてほしいと思ったこと」については、「特になし」が6割を超え、「志望業種について意見された」（13.5%）が続きました。志望業種について意見された学生に対して、保護者から勧められた業種を聞くと、「具体的に勧められた業種はない」（23.2%）が最多となり、自由回答では「親とは希望進路も時代も違うのに、自分の物差しで比較された」「特定の業界に対する偏見が多かった」などの声がありました。保護者世代と現在の学生では働く環境が大きく変わっていることも踏まえ、保護者の皆さんは自分たちの経験のみで判断せずに、学生個人の意見を尊重し支援することが望ましいでしょう。新型コロナウイルス感染症の影響で、自宅で過ごす時間が長い状況ですが、学生から就職活動の話が出た際は参考にしてみてください。

保護者とのかかわりの中で最もうれしかったこと、助かったと思ったこと（13項目中上位4項目）



※回答者割合15%以上を抜粋

本件に関するお問い合わせ先
株式会社リクルートキャリア　広報部　社外広報グループ
TEL：03-3211-7117　　MAIL：kouho@waku-2.com

保護者とのかかわりの中でうれしかったこと、助かったと思ったこと

最もうれしかったことは「励まし、癒し、心の支えになってくれた」

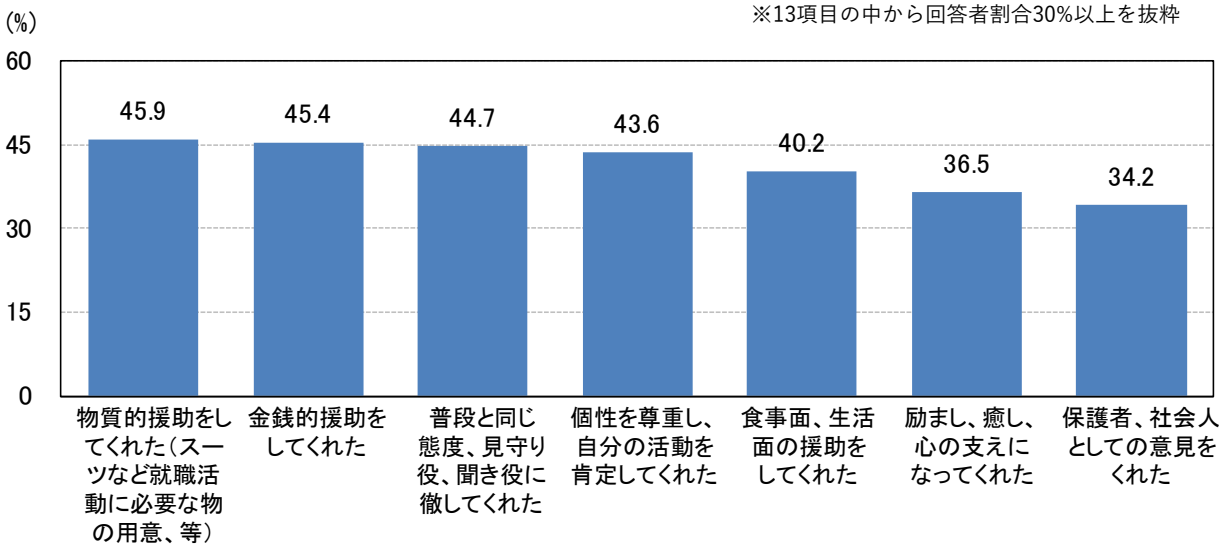
・「保護者とのかかわりの中でうれしかったこと、助かったと思ったこと」（複数回答）は、「物質的援助をしてくれた（スーツなど就職活動に必要な物の用意、等）」45.9%、「金銭的援助をしてくれた」45.4%、「普段と同じ態度、見守り役、聞き役に徹してくれた」44.7%であった。

・「保護者とのかかわりの中で最もうれしかったこと、助かったと思ったこと」（単一回答）は、「励まし、癒し、心の支えになってくれた」16.8%、「個性を尊重し、自分の活動を肯定してくれた」16.0%、「普段と同じ態度、見守り役、聞き役に徹してくれた」15.4%であった。

保護者とのかかわりの中でうれしかったこと、助かったと思ったこと（上位抜粋）

大学生_全体（就職志望者/複数回答）※大学院生除く

※13項目の中から回答者割合30%以上を抜粋

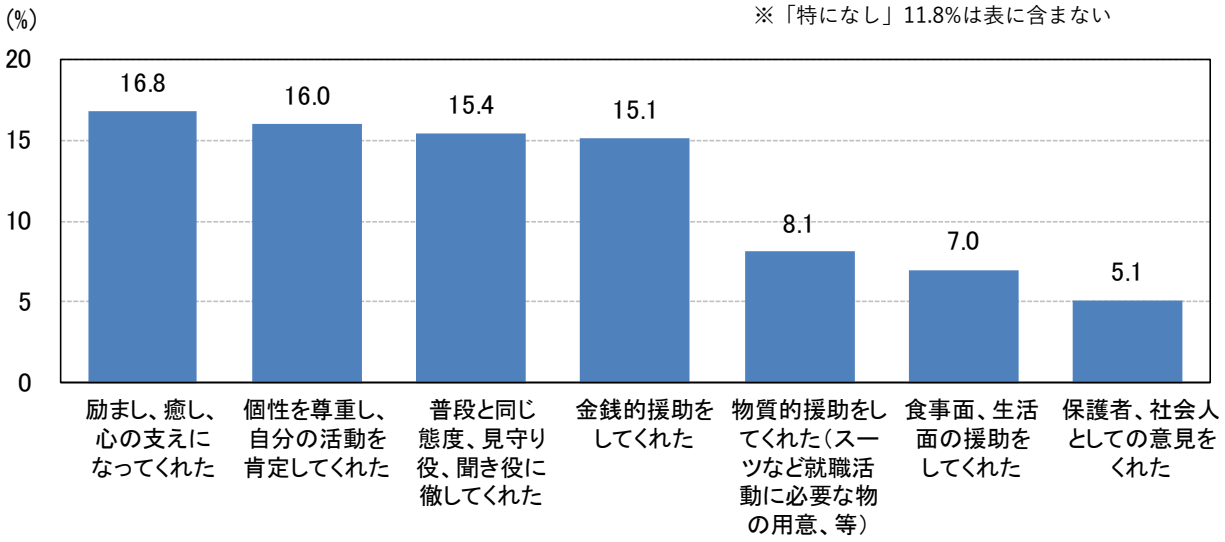


保護者とのかかわりの中で最もうれしかったこと、助かったと思ったこと（上位抜粋）

大学生_全体（就職志望者/単一回答）※大学院生除く

※13項目の中から回答者割合5%以上を抜粋

※「特になし」11.8%は表に含まない



保護者とのかかわりの中でつらかったこと、やめてほしいと思ったこと

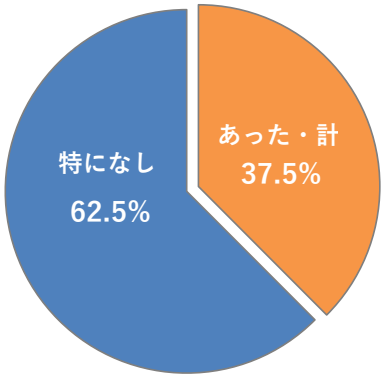
「特になし」が6割以上、次いで「志望業種について意見された」

・「保護者とのかかわりの中でつらかったこと、やめてほしいと思ったこと」について「特になし」が62.5%。
・「志望業種について意見された」13.5%、「志望職種について意見された」10.3%。

保護者とのかかわりの中でつらかったこと、やめてほしいと思ったこと

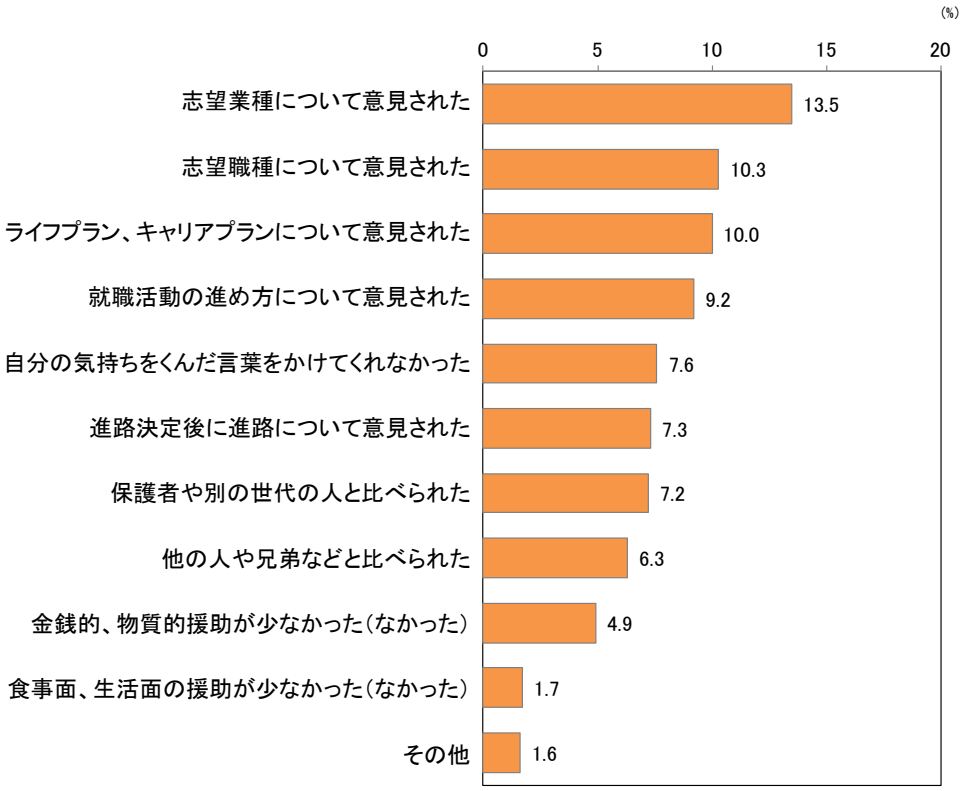
大学生_全体（就職志望者_保護者とのかかわりの中でつらかったことやめてほしいと思ったことの回答内容をまとめ「あった・計」「特になし」に集計）※大学院生除く

（N=1162）



保護者とのかかわりの中でつらかったこと、やめてほしいと思ったこと（あった・計の内訳）

大学生_全体（就職志望者/複数回答）※大学院生除く



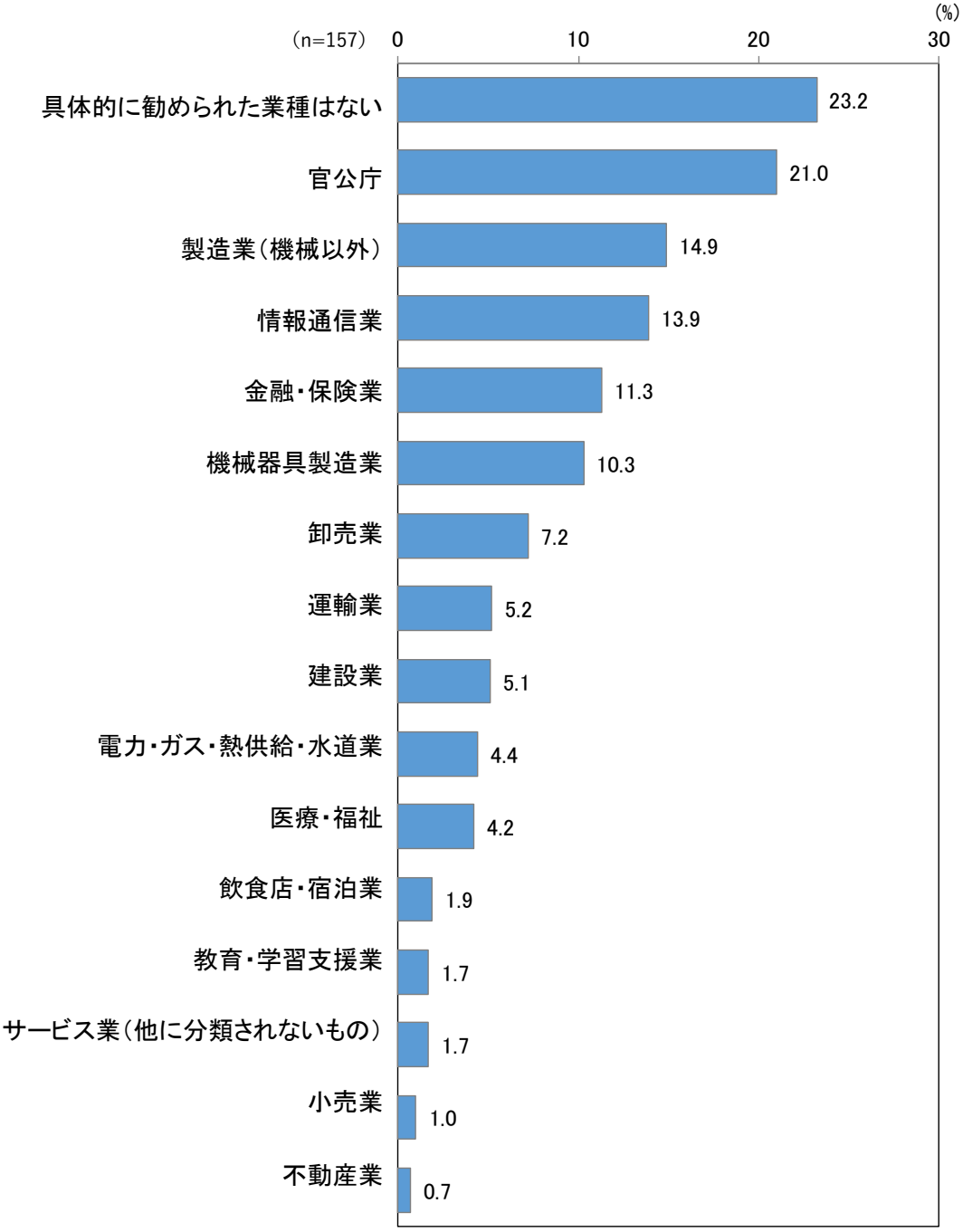
保護者から勧められた業種

志望業種に意見された学生のうち、「具体的に勧められた業種はない」が最多

・「保護者とのかかわりの中でつらかったこと、やめてほしいと思ったこと」で「志望業種について意見されたこと」と回答した学生が「保護者から勧められた業種」について、「具体的に勧められた業種はない」が23.2%、「官公庁」が21.0%、「製造業（機械以外）」が14.9%。

保護者から勧められた業種

大学生_全体（就職志望者・「志望業種」について具体的に意見された/複数回答）※大学院生除く



保護者とのかかわりの中で思ったことについて

保護者とのかかわりの中で思ったこと

・「保護者とのかかわりの中で最もうれしかったこと、助かったと思ったことについて」では、〈励ましてくれた〉〈自分に任せて見守ってくれた〉〈普段と変わらず接してくれた〉などのコメントがあった。

・「保護者とのかかわりの中で最もつらかったこと、やめてほしいと思ったことについて」では、〈特定の業界に対する偏見が多かった〉〈勝手にキャリア設計をされた〉〈親の物差しで比較された〉などのコメントがあった。

保護者とのかかわりの中で最もうれしかったこと、助かったと思ったことについて

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/自由回答） ※大学院生除く

・人と比べて落ち込む自分に『自分らしく』という言葉をくれた。（関東／文系女性）

・たとえ落ちたとしても人格まで否定されてるわけじゃないから、落ち込まなくてもいいと励ましてくれた。（中国・四国／理系女性）

・就職活動に関しては自分に任せてくれ、意見などは言わずに見守ってくれた。（九州／理系男性）

・他人にするのがはばかられるような就職活動中の話も聞いてもらえるので、精神的に助けになった。（近畿／理系男性）

・上手くいっていない時でも普段と変わらない態度で接してくれたこと。（北海道・東北／文系男性）

・とにかく就活にはお金がかかる。バイトする時間もなかったので、親が援助してくれたのは本当に助かった。（関東／理系女性）

・一人暮らしで交通費などもかかっていたので、物資の援助は助かった。（中国・四国／文系女性）

保護者とのかかわりの中で最もつらかったこと、やめてほしいと思ったことについて

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/自由回答）※大学院生除く

・自分の志望している業種を否定して親が勤めている業種を勧めてきたこと。（関東／理系女性）

・特定の業界に対する偏見が多かった。（近畿／文系男性）

・毎回話すたびにそれとなく進路についてきかれたこと。特に微妙な時期は 辛かった。（中部／文系女性）

・勝手にキャリア設計をすることをやめてほしかった。（関東／理系男性）

・根拠のない公務員押しや、東京＝危ないというステレオタイプに基づく反対。（中部／文系男性）

・親とは希望進路も時代も違うのに、自分の物差しで比較された。（近畿／理系女性）

・就職活動は費用が掛かるので、金銭的援助をもっとしてほしかったと感じています。（近畿／理系男性）

※ 文章は抜粋

調査概要

調査目的｜ 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する
調査方法｜ インターネット調査
集計方法｜ 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体をもとに、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2020年卒：2019年12月1日時点

調査対象｜2020年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2020』（※）にて募集した調査モニターに登録した学生6,371人（内訳：大学生5,247人/大学院生1,124人）
調査期間｜2019年12月1日～12月9日
集計対象｜大学生 1,290人/大学院生 445人
※リクナビ：株式会社リクルートキャリアが運営している、就職活動を支援するサイト
https://job.rikunabi.com/2021/

モニターの抽出条件

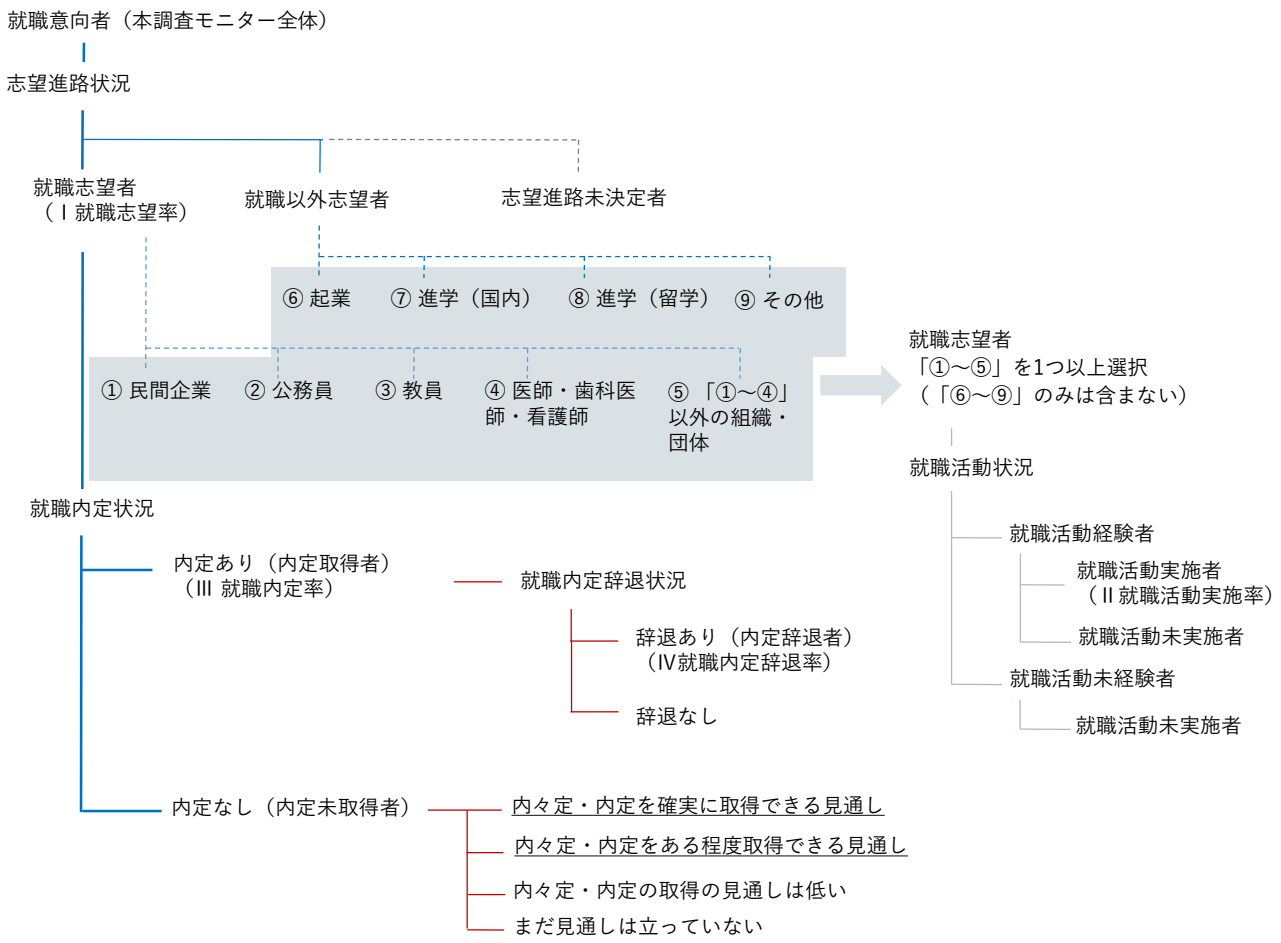
「卒業後の志望進路（志望する進路のすべて）」の回答状況をもとに、次の条件で対象を抽出
本調査対象　＝「就職意向者（就職志望者＋志望進路未決定者）」　（※モニター募集時）
本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

○ %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある

就職志望者から見た内定状況の構図



＜各率の算出方法＞　【時点：「当該月1日時点」】

Ⅰ就職志望率	＝	就職志望人数	÷	就職意向人数
Ⅱ就職活動実施率	＝	就職活動実施人数	÷	就職志望人数
Ⅲ就職内定率	＝	就職内定取得人数	÷	就職志望人数
Ⅳ就職内定辞退率	＝	就職内定辞退人数	÷	就職内定取得人数

＜用語の定義＞

- ● 就職意向者　＝　当初（本調査モニター募集時）の志望進路が「就職」および「未決定」者
- ● 就職志望者　＝　当月、就職を志望している者
- ● 就職活動実施者　＝　当月、就職活動を実施している者（※）
- ● 就職活動経験者　＝　当月までに就職活動の経験がある者
- ● 就職内定取得者　＝　当月までに内定（内々定）の取得経験のある者
- ● 就職内定未取得者　＝　当月までに内定（内々定）の取得経験がない者
- ● 進路確定者　＝　当月、進路が確定している者
  進路確定率 ＝ 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
- ● 就職確定者　＝　当月、就職先が確定している者
- ● 就職内定辞退者　＝　当月までに内定（内々定）の辞退経験がある者

＜地域区分の内訳＞

- ○ 北海道・東北　＝　北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- ○ 関東　＝　東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
- ○ 中部　＝　静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
- ○ 近畿　＝　京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
- ○ 中国・四国　＝　鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ○ 九州　＝　福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者

保護者が知っておきたい
就職活動に関するデータ

data 10

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

就職活動を控えた学生を取り巻く環境は、保護者自身が就職活動をしていた時代とは様変わりしています。そのため、お子さまの就職活動は、保護者世代のものとは、手順、内容、スケジュールなどもかなり異なります。やるべきことは多岐にわたり、膨大な情報から必要な情報を正しく選ぶ難しさは、保護者世代には想像しづらいものです。
そこで、お子さまを見守るために、保護者として知っておきたい10個のデータをまとめました。もちろん数値自体を覚えていただく必要はありません。どんな状況下でお子さまが就職活動しているのか。それを理解したうえで、安心して見守り応援していただく一助となれば幸いです。

contents

1 世代による環境の変化

2 共働き世帯の推移

3 大卒求人倍率の推移

4 就職活動のスケジュール

5 就職内定率の推移

6 インターンシップ参加率

7 入社予定先の決め手

8 就職活動にかかる費用

9 保護者とのかかわりで「よかったこと」

10 保護者とのかかわりで「嫌だったこと」

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

1 世代による環境の変化

■ 就職活動生を取り巻く環境は大きく変化

	大学進学率	日本の経済成長率	大卒求人倍率	大学生の就職先業界
情報誌世代	25.1% （1988年）	4.2% （1974～1990年度の平均値）	2.41倍 （1992年3月卒）	製造業 26.1% サービス業 25.4% （1993年）
Web世代	53.3% （2018年） 世代間の学生数は、1学年約46万人から約72万人に増加している。 出典：文部科学省学校基本調査	0.74% （2004～2015年度の平均値） 実質GDPの対前年度増減率。 出典：内閣府GDP統計より加工	1.83倍 （2020年3月卒） 大卒求人倍率は、学生１人当たりに何件の求人があるかの目安。 出典：リクルートワークス研究所	製造業 12.1% サービス業 33.9% （2019年） 上記の割合の変化により、サービス業に進む学生は約4万人増加した。 出典：文部科学省　学校基本調査より加工　※下記注参照

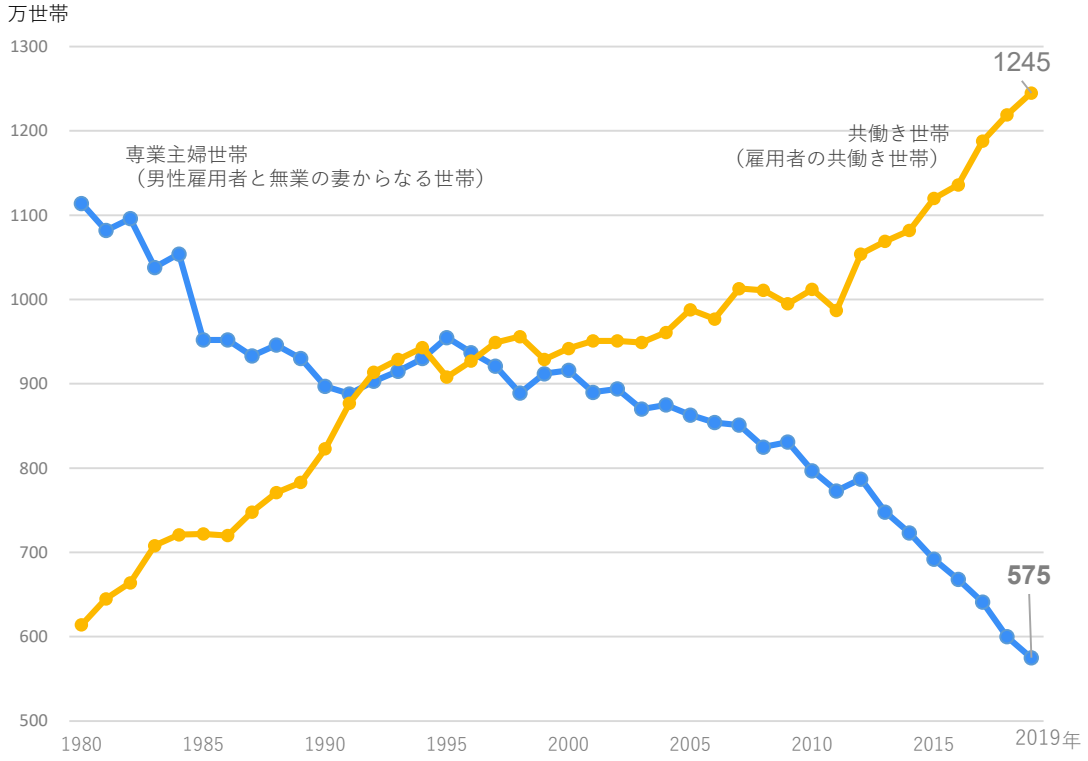
※2019年のサービス業は、以下の分類の総計：学術研究、専門・技術サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業、サービス業（他に分類されないもの）

今と保護者世代の環境を比較すると、大学進学は、保護者世代が4人に1人だったのに対して、現在は2人に1人。経済成長率の平均値は、1974～1990年度の4.2%に対して、2004～2015年度は0.74%にダウンしました。求人倍率は、バブル期は2倍以上の「超売り手市場」だったのに対して、現在は1.83倍。日本の産業構造の変化も大きな特徴です。保護者の多くが就職した当時は製造業が世界を席巻しており、就職先の代表格は「メーカー」でした。現在では、サービス業の比率が上昇。インターネットを中心に、30年前には見られなかった新しいサービスが台頭してきています。就職活動の仕方も同様で、情報収集はインターネット、資料請求もインターネットからのエントリーが必要になり、会社説明会や面接もWebで行う企業が増えています。今の就職活動生は、Webを使いこなすことを前提とした就職活動を行う「Web世代」と言えるでしょう。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

2 共働き世帯の推移

■共働き世帯が一般的になり、労働人口は減少の見込み



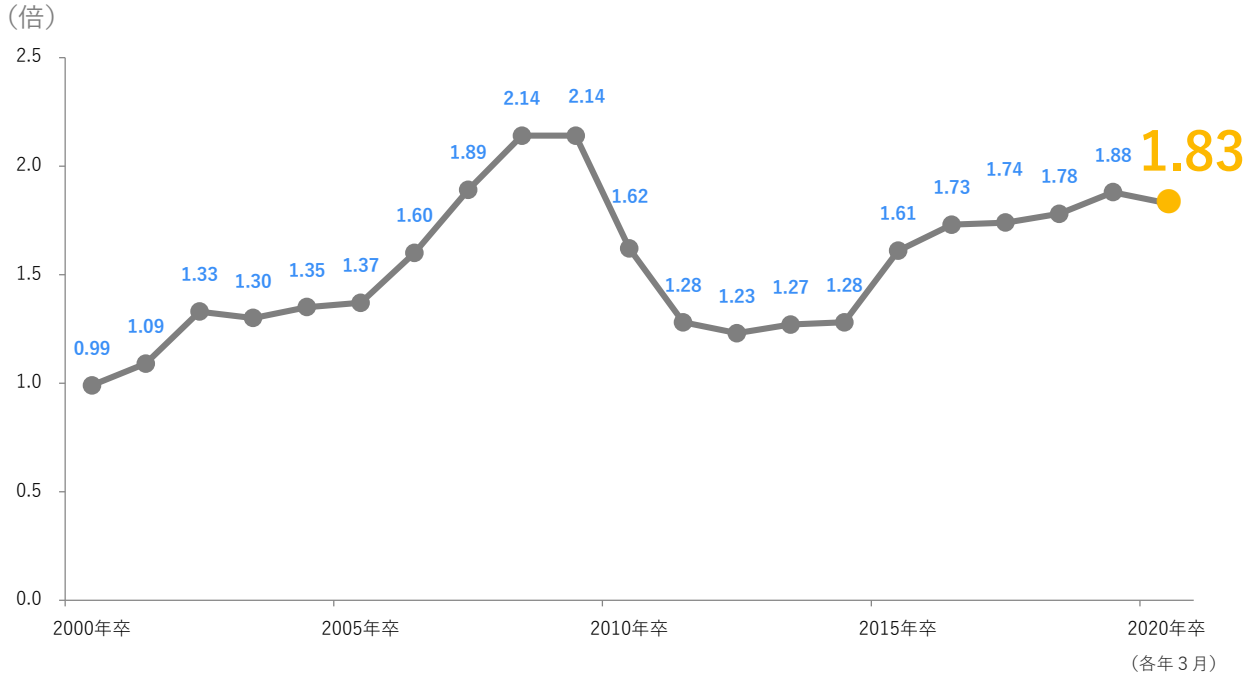
厚生労働省「厚生労働白書」、内閣府「男女共同参画白書」、総務省「労働力調査特別調査」（2001年以前）
及び総務省「労働力調査（詳細集計）」（2002年以降）

労働人口の構成を見ると、専業主婦世帯(男性雇用者と無業の妻からなる世帯）と共働き世帯の数は、1997年を境に逆転し、以降、共働き世帯が増加。2019年では、それぞれ575世帯と1,245世帯と、共働き世帯が専業主婦世帯の約2倍に達しています。今の日本では、共働き世帯が一般的であると言えます。日本の人口が大きな減少傾向にあることに伴い、労働人口についても、今後は減少が見込まれています。2045年ごろには、1990年と比べ20～64歳のいわゆる生産年齢人口が2420万人減少するという推計もあります。今の学生の世代を含めた労働人口は、長期に渡って減る一方であることが、予測されています。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

3 大卒求人倍率の推移

■ 大卒求人倍率は、経済状況によっても変化する



（リクルートワークス研究所『ワークス大卒求人倍率調査』）

2020年3月卒業の大学生･大学院生対象の大卒求人倍率は1.83倍でした。これは民間企業に就職を希望する学生1人あたり、1.83件分の求人があることを示します。ただし、従業員規模別に見ると、300人未満企業（中小企業）では8.62倍、5,000人以上では0.42倍であり、規模によって差があることがわかります。業種別では、流通業が11.04倍で一番高く、次いで建設業6.21倍、製造業1.97倍と続きます。一方で、サービス・情報業は0.43倍、金融業は0.28倍と、業種によって違いが見られます。

※各従業員規模、各業種への就職希望率は、第一志望の情報をもとに算出

大卒求人倍率は、民間企業の採用数（需要）と、就職を希望する学生の人数(供給）のバランスであるため、リーマン・ショックの影響で求人倍率が低下した2010年卒のように経済状況によって変化します。就職・採用環境を把握する目安になっています。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

4 就職活動のスケジュール

■一般的な就職活動スケジュール

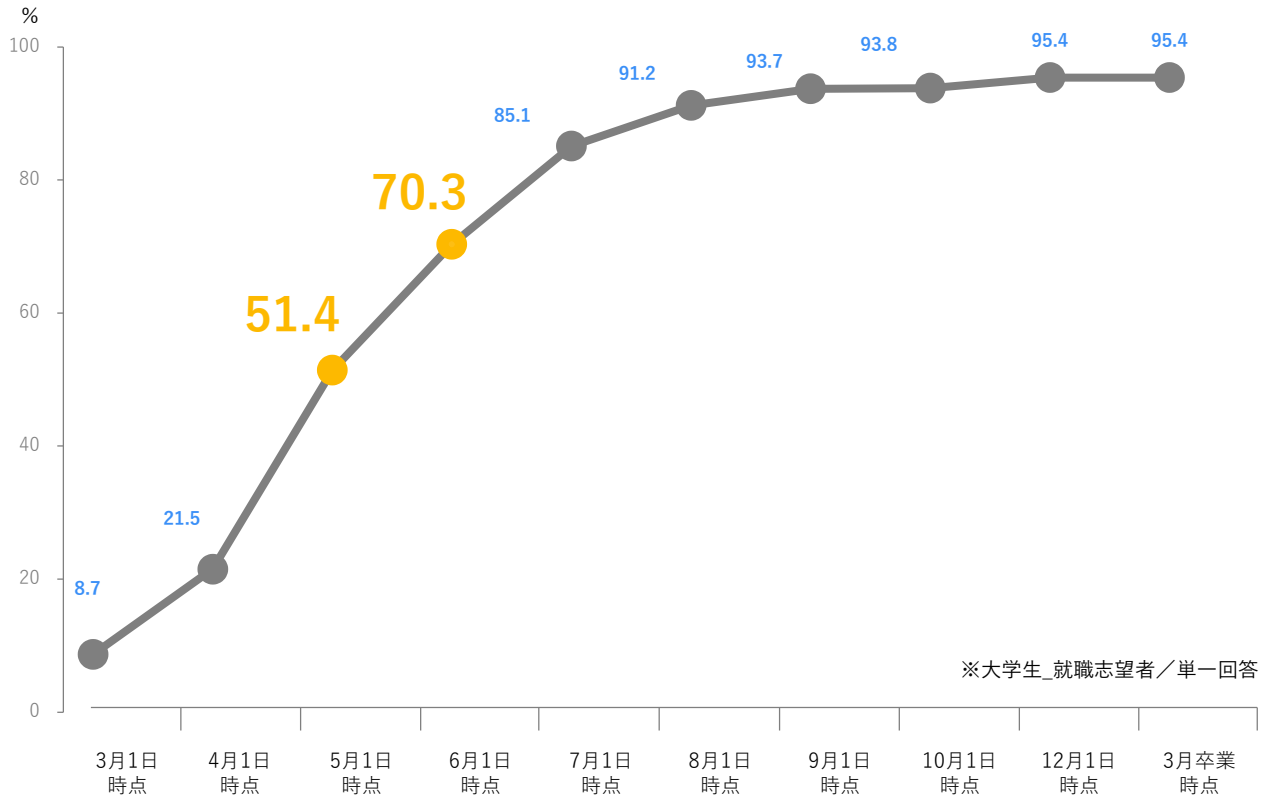
現在の就職活動スケジュールは、上の図の通り。就職活動生向けの企業の採用広報は、卒業前年の3月1日から始まります。このとき公開された企業の採用情報をもとに、学生がインターネット等で「プレエントリー」するのが一般的。プレエントリーをした企業からは、追って企業説明会などの通知があります。企業同士の比較・検討を通じて働きたい企業を絞り込んだら、選考を受けたい企業にエントリーシートを提出します。エントリーシートは、企業によって項目やスタイルが異なり、書類選考や面接に利用されます。その後、正式には６月から面接などの採用選考が始まりますが、企業によっては４～６月からは内々定（内定）が出始めます。

卒業前年次の夏ごろから学生が企業の中で行う就業体験「インターンシップ」に参加する学生が増え、大学の先輩など社会人に話を聞く「OB・OG訪問」をする学生もいます。上の図のスケジュールに沿って採用活動を行わない企業もあり、就職活動が忙しい時期は、選考を受ける企業や業種よってさまざま。一般的には説明会やエントリーシートの提出が立て込む３～４月が多忙になる学生が多く、「3月半ばまで業種・業界を絞らずにいろいろな会社説明会に参加し、その後、興味を持った業種・業界に絞ることができた。4月からゼミが始まり、本格的に就職活動を進めながら、卒業 論文に取り組んでいかなければならず、選考のスピードも早いので、とても忙しくなると思う」（中部／文系）といった声も寄せられています。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

5 就職内定率の推移

■ 2020年卒 大学生、就職内定率の推移



（就職みらい研究所『就職プロセス調査 2020年卒』）

大学生（大学院生除く）の就職内定率（就職を志望する大学生のうち、当月までに内定・内々定の取得経験がある学生の割合）は、卒業年次の５月１日時点で約半数に達しています。６月に企業の採用選考が解禁した時点では、約７割の学生が内定・内々定を得ていました。ただし、早く内々定・内定を得ることが必ずしもいいこととは言えません。「GW前に内定をいくつか得たことで安心してしまい、第１志望の会社の選考の対策を怠って失敗してしまった」（中国・四国／文系）という学生も見られました。

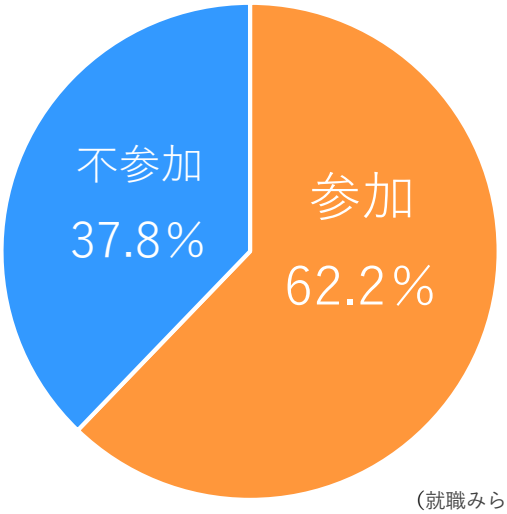
また、進路確定率で見ると、５月１日時点で約３割、６月１日時点で約半数、７月１日時点で約７割であり、卒業年次の５～６月に進路を決めている学生が多いことがわかります。

※「内定」とは、在学中に締結される“卒業後を始期とした労働契約”ととらえることが多く、「内々定」はその前段階のことで、厳密な定義はありません。また、正式な内定日は「卒業・修了学年の10月１日以降」です。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

6 インターンシップ参加率

■ インターンシップ参加率は、約６割



（就職みらい研究所『就職白書2020』）

インターンシップに参加した2020年卒の学生は62.2％で、年々増加傾向です。キャリア教育の一環として大学の授業で行われるものもあれば、学生が個人で申し込むものもあり、参加方法はさまざまです。「インターンシップへの参加」を就職活動の開始と認識している学生が全体の25.7%という調査結果もあります。学生が初めてインターンシップに参加する時期についても、早まる傾向が見られます。参加したインターンシップの平均社数は、4.53社ですが、「１社のみに参加」という学生も24.3 ％と、全体の約４分の１を占めています。

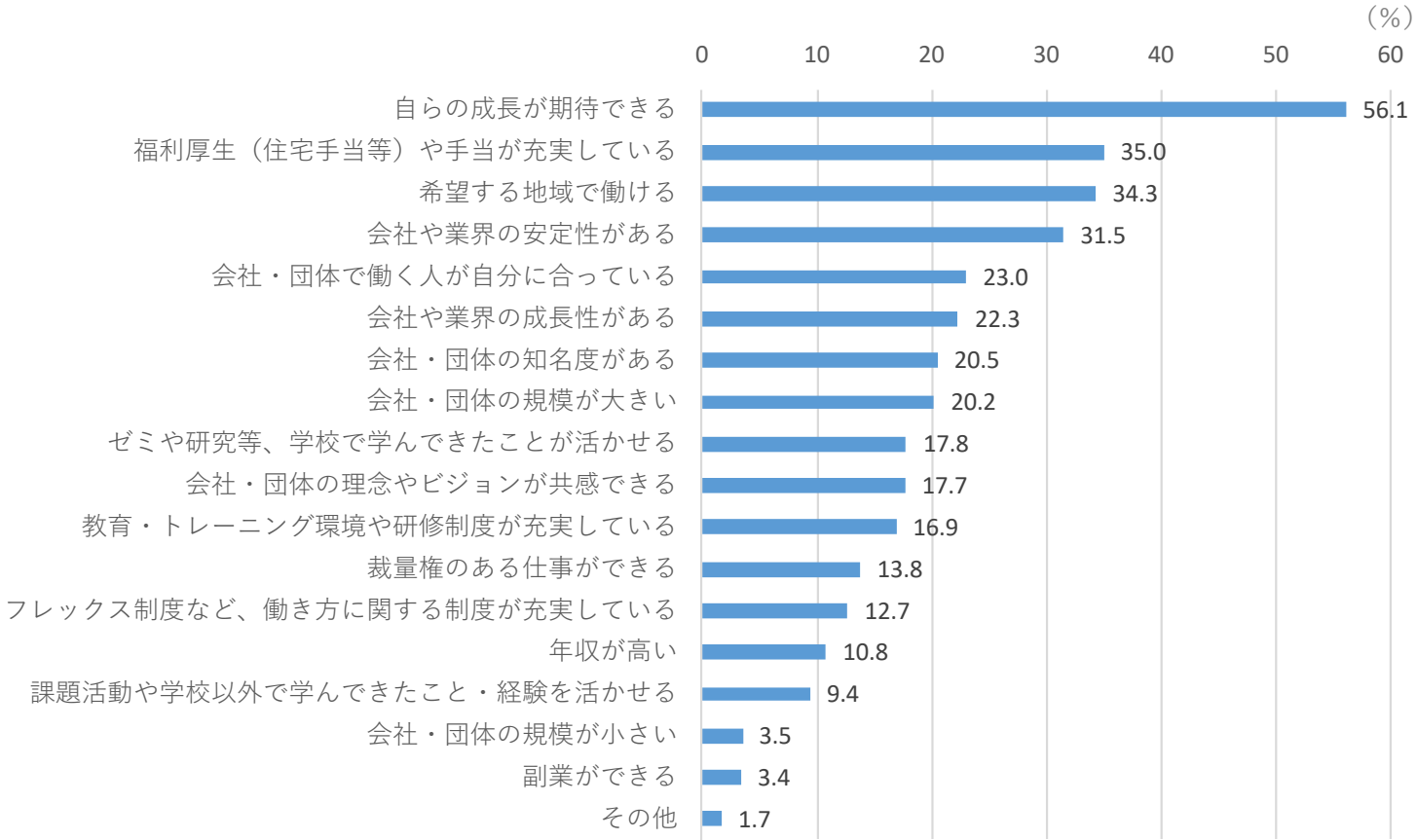
インターンシップに参加することで、業種や職種についての理解が深まる、自分自身のスキルを見極められる、キャリア観を明らかにできるなどさまざまな効果が見られます。学生からは「大学3年の夏からインターンシップに参加し、自分のやりたいことを探っておいたことで、解禁後すぐ動くことができた。きつかったしつらかったが、やはり早めに動いておいてよかった。」（中部・理系）といった声が聞かれました。

近年は、インターンシップに参加した企業に入社する学生の割合も増えています。企業の採用人数はインターンシップの受け入れ人数よりも多く、インターンシップに参加していないからといって就職できないということはありませんが、学生自身が成長する貴重な機会になっています。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

7 入社予定先の決め手

■ 就職先を確定する際に決め手となったこと（複数回答）



（就職みらい研究所『就職プロセス調査 』 2020年卒 3月卒業時点』 ）

就職先を確定する際に決め手となったこととしては、「自らの成長が期待できる」が56.1％と高く、次いで「福利厚生（住宅手当等）や手当が充実している」35.0％、「希望する地域で働ける」34.3％、「会社や業界の安定性がある」31.5％と３割台で続きました。「会社・団体で働く人が自分に合っている」「会社や業界の成長性がある」「会社・団体の知名度がある」「会社・団体の規模が大きい」も約2割に上りました。就職時点で転職を意識している学生も増え、「新卒入社した会社で定年まで勤め上げる」という考えだけでなく多様な働き方を志向しています。「自ら成長」することのできる、どこに行っても通用する汎用的なスキルが身につく組織への支持も高まっています。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

8 就職活動にかかる費用

■ 就職活動にかかった費用の平均金額は、10 万円を超える

活動全体　12万8890円

交通費	4万9467円	（使用率98.2%）
被服費	3万6869円	（使用率86.6%）
宿泊費	2万7059円	（使用率20.5%）
飲食費	1万2488円	（使用率87.3%）
書籍費	5697円	（使用率63.1%）
公務員試験対策費	10万5195円	（使用率10.9%）
スキルアップ費用	2万3847円	（使用率28.7%）

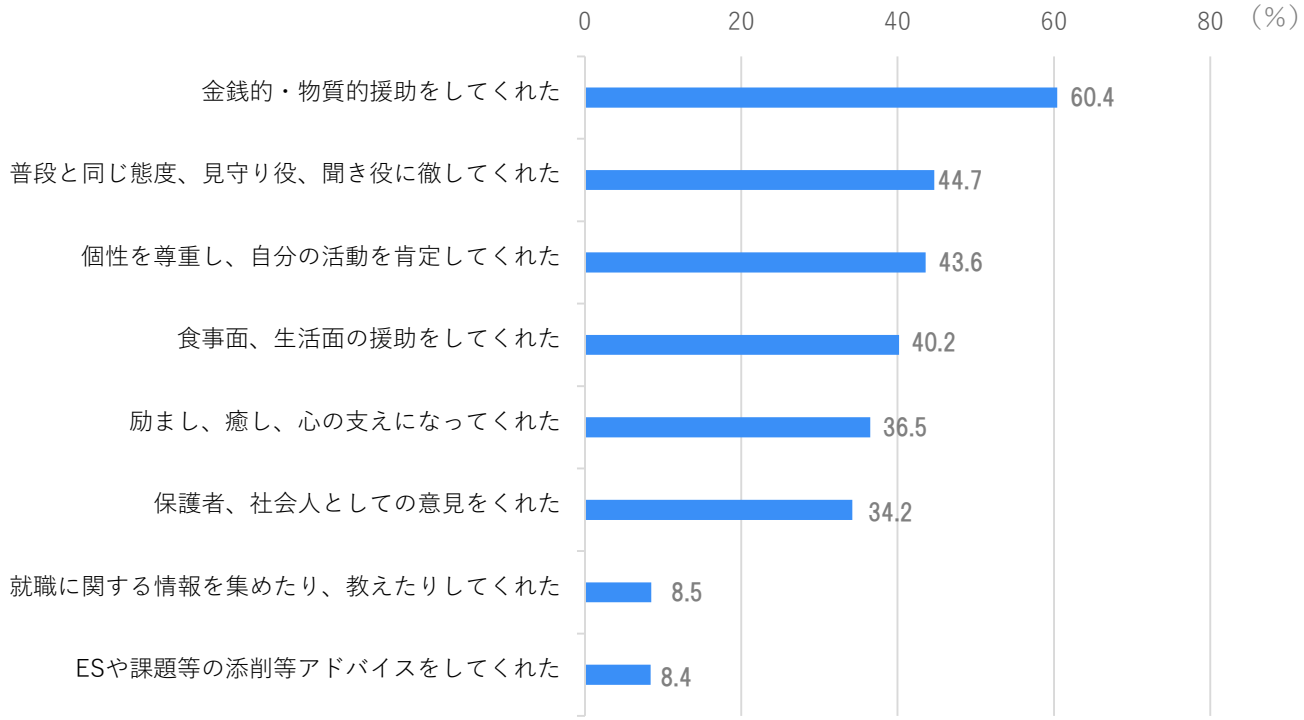
（就職みらい研究所『就職プロセス調査 2020年卒 7 日1日時点』）

就職活動にかかった費用の平均額は、就職活動全体では、約13万円です。地域別では、北海道・東北、中部、近畿、九州で「10万円以上20万円未満」の学生の割合が最も高く、関東、中国・四国は「5万円以上10万円未満」の学生の割合が最も高くなりました。用途別に見ると、交通費が一番高く、約5万円。多額の交通費がかかった学生は、九州や北海道、東北エリアの学生に多い傾向がある一方で、同エリアには、さほど交通費がかかっていない学生も混在。遠方に出向いて就職活動をしたかどうかで交通費の額に影響していることがうかがえます。学生からは「出身県外の大学に進学したため、地元で就職先を見つける際、交通費がかかってしまった。就活を始める前に準備しておく必要があったと感じている」（北海道・東北／文系）という声も聞かれました。
次いで、スーツやワイシャツ、ブラウスなどの被服費が4万円弱、説明会や面接のために遠方に行った際の宿泊費が3万円弱となり、説明会や面接などにでかけた際の飲食費も1万円を超えました。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

9 保護者とのかかわりで「よかったこと」

■ 保護者とのかかわりでよかったこと（複数回答）



※「金銭的・物質的援助をしてくれた」は「金銭的援助をしてくれた」と「物質的援助をしてくれた」の合算値
※全11項目より上位８項目を抜粋
（就職みらい研究所『就職プロセス調査 2020年卒 12日1日時点』）

就職活動を終えた学生に対するアンケートでは、「 保護者とのかかわりでよかったこと 」があったと回答した学生は 、「 嫌だったことがあった 」という学生の 2 倍以上になりました。さらに「 就職活動における保護者の関与で 、嬉しかったこと・役に立ったこと」を尋ねたところ、「金銭的 ・物質的援助をしてくれた」が最も多い結果となりました。このように回答した学生の中からは、「就職活動を遠方で行ったので 、交通費を工面するのが難しかったため 、 資金を援助してもらっていた 。食費節約のために 、おにぎりを作って持たせてくれたのもありがたかった 」（中部／文系）という声もありました。

データからは、個人差はあっても 、結果的に多くの就活生が「保護者の関与」を歓迎し 、就職活動につなげていることがわかります 。就職活動や学生のためには保護者のサポートが大切であると言えそうです 。また、就職活動中だからと特別に意識せずに、普段通りに接することも重要です。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

10 保護者とのかかわりで「嫌だったこと」

■ 保護者とのかかわりで「嫌だったこと」（複数回答）

※全11項目より上位９項目を抜粋
（就職みらい研究所『就職プロセス調査 2020年卒 12日1日時点』）

就職活動を終えた学生に「 保護者とのかかわりの中で 嫌だったこと」 を尋ねたアンケートでは、「特にない」と回答する学生が 6 割を超える中、明確に「これが嫌だった」と回答した学生も少なくありませんでした 。アンケートのコメントから見えたのは、「否定」「誰かとの比較」「意見の押し付け」といったようなキーワード。例えば、「志望業種について意見された」では、「第一志望の業界について 、『将来性のない業界』などと、ネットなどの正確でない情報を根拠に否定し、他の業界や企業を勧めてきた」（中国・四国／文系）という声もありました。就職活動で大変な思いをしている学生にとって、身近にいる保護者がストレスになってしまうのは好ましくありません 。また 、それが子どものためを思ってしていることならば、なおさら本末転倒です。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved

ご紹介した10個のデータから、今の就職活動、お子さまを取り巻く状況がおわかりいただけたでしょうか。就職活動に関してさまざまな支援の形がありますが 、重要なのは 、進路を決めるのはお子さま自身であると認識していること。そして、お子さまがもう大人であるという前提で、信じて任せることが大切です。就職活動中だからといって、特別なことをする必要はありません。普段からのコミュニケーションが大切です。家族を含めた他人とのあいさつやマナーの徹底など、日ごろの積み重ねがお子さまの成長につながっています。
また、大学のキャリアセンターのサポートも期待できます。お子さまが悩んでいるときなど、キャリアセンターの利用を促すのも良いでしょう。
就職活動を終えた学生から「大変だったけど自分が成長できたと感じられる機会になった」という声を聞くことも少なくありません。社会人になる第一歩である就職活動を通じて、お子さま自身が成長し、自信を持って社会にでていけるよう、保護者の皆さまには温かく見守っていただければと思います。

※本記事の無断転載・複製を禁じます

データの転載・引用などに際しては, 就職みらい研究所 HP 最下部の
「よくあるご質問/お問い合わせ」（https://data.recruitcareer.co.jp/faq/）よりお問い合わせください。

(C) Recruit Career Co., Ltd. All Rights Reserved